

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271102149		
法人名	医療法人 行清会		
事業所名	鍼先医院グループホーム 新館1F		
所在地	西彼杵郡時津町日並郷1764-7		
自己評価作成日	平成29年8月28日	評価結果確定日	平成29年10月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokekka.nsf/aOpen?OpenAgent&amp;JNO=4271102149&amp;SVC=0001096&amp;BJN=00&amp;OC=01">http://www.wam.go.jp/wamappl/hyoka/003hyoka/hyokekka.nsf/aOpen?OpenAgent&amp;JNO=4271102149&amp;SVC=0001096&amp;BJN=00&amp;OC=01</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 医療福祉評価センター		
所在地	長崎市弁天町14番12号		
訪問調査日	平成29年9月13日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平均年齢が90歳以上と高齢化・重度化しているが、残存能力が維持できるよう工夫している。「その人らしく、最後まで」を理念に、スタッフ全員共有し、悔いのない介護を目指している。勤続年数10年以上のスタッフも多く、育休・産休のスタッフも何名も復帰している。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人内のデイサービス利用時からグループホームの入所につながっている利用者が多くいる。デイサービスとグループホームが行き来できる出入り口があり、なじみの人がデイサービスにきていけばいつでも語り合える場を提供している。職員が介護職であっても医師・看護師と連携し看取りができる体制を整えている。玄関に施錠がなく、日中は自由に出入りができ 身体拘束しない環境を整えている。外部・内部の研修に参加し、事例発表の機会もある。職員の介護意識の向上や介護技術の更なる習得に法人全体が取り組んでいる。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念は玄関に掲示。「その人らしく、最後まで」を全員が共有している。	理念に基づき職員の研修や勉強会を行い、さらに意識の向上や実践につなげている。家族と共に理念を共有し看取りの支援にも活かされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方には挨拶を心掛けている。行事には案内を持っていき、参加の声掛けを行っている。	自治会に入っている。地域の清掃活動や会合にもスタッフが参加している。施設の行事を回覧で回し地域の人にも参加してもらったり、避難訓練にも参加協力後、評価をしてもらう機会を作り交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症講演会を行い、地域の方向けに発信し、理解を深めてもらっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、開催している。	自治会長、民生員、包括支援センター、役場の方など定期的に参加がある。地域との情報交換の場になっており、行事があれば事前に連絡を互に取り交わし、日常のサービス向上に活かしている	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認知症キャラバンメイト3名が、市町村主催の勉強会に参加。	役場や包括支援センターと協力して外部の研修にも参加している。入所・退所の連絡を行ったり災害時の受け入れに対する相談があったり日頃から相談しやすい関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束拒否宣言は提示している。年1回、全体での勉強会を行い、情報共有を図っている。	長崎県の身体拘束廃止推進員養成研修に職員が定期的に参加している。身体拘束のマニュアルもありスタッフ全員が共通の理念を持ち日常の支援を行っている。日中は玄関の施錠もせず、外出したい方にはそっと付き添うなど支援が行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記同様、勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会を行い、理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時にきちんと時間を設け、説明を行っている。改定時には、家族懇談会などで説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会や家族懇談会などで、意見交換の場を設けている。	個別の面会日や家族と行う食事会の時に直接要望や意見を聞くようにしている。具体的な意見が出たときはケアプランにも反映させ、家族と共に支援ができるよう工夫をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体カンファレンスや主任会議で意見交換している。	ユニットや全体会議を行い日常の状況を職員全員が把握できるようにしている。ユニットリーダーが日常的に職員の意見を聞き取る機会を作り、働きやすい職場環境を整えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	産休・育休後の復帰、また再就職する職員も、柔軟に対応してくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会は、スタッフに平等に与えられている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に勉強会を行い、交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御家族に協力して頂き、初期アセスメントを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に御家族との面談を設け、安心してもらえるように対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と御家族の要望を確認し、柔軟な対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「人生の先輩である」という気持ちを職員が共有し、穏やかな生活が出来るような場面作りを心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、本人も一緒に対話をされており、信頼関係は築けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の方や友人などが面会に来られることも多い。	敷地内のデイサービスに施設内から移動ができ馴染みの人たちと語らいができる場を設けている。行きつけの理美容や歯医者などの通院も関わりを継続して支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性もあるので、個別対応したり、職員がクッションになったりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	死亡退所がほとんどであるが、初盆には必ず伺っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時にアセスメント用紙に記入して頂いている。	利用者の2/3が90歳以上とのことでお元気ではあるが、なかなか希望や意向の確認は難しい。入浴や散歩の時に食べたい物や行きたい場所等の話をしている。日曜日のメニューは、ユニット毎にお好みの料理を提供している。ケアプラン作成時にも本人や家族の意向の把握を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族からの話から聞くことがほとんどであるが、本人との会話からも引き出せることもある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活パターンを把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃より意見交換ができるようにしている。	利用者は職員担当制とし、担当がアセスメントやモニタリングを行なっている。アセスメントはセンター方式を用い、利用者一人一人をよく理解する取り組みとして、担当職員が書いた似顔絵を載せている。ユニットカンファは適宜行い、モニタリングを兼ねたケースカンファレンスは半年に1回行っている。カンファレンス用のケアプランも独自の書式を用いわかりやすいものとなっている。食事を口から食べたいと胃管から経口摂取になった事例もある	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	連絡ノートや口頭で伝えたりと共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況に応じ、柔軟な対応を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	マンパワーあり(自治会長。民生委員)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	通院介助行っている。歯科・眼科など入所前から馴染みの所はお連れしている。	入所時にかかりつけ医の説明を行ない同意を得ている。法人の医療機関より2週間に1回の往診がある。他科受診にも看護師や介護の職員が同行している。家族とも病院で落ち合ったりと連絡を取り合っている。緊急時や急変時も看護師を中心に医療との連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師2名常勤であり、医療体制は整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には見舞うようにし、御家族と情報交換を図っている。また、ソーシャルワーカーとは電話にて連絡を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の段階で一度説明を行っているが、終末期に突入した際、再度説明を行っている。また、ケアプランを新たに作成している。	入所時に「重度化した場合における対応に関する指針」をもとに看取りに関する説明を行なっている。終末期の病状について主治医からの説明があり、同意書を得ている。「その人らしく最後まで」という理念のもと、最後の時に寄り添っている。緊急連絡網や法人の施設や医療との連携もあり、職員が不安にならないような体制作りもできている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応については、マニュアル作成している。AED設置し、心肺蘇生法も年1回行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	消防署立ち会いにて年2回実施している。月1回スタッフと防災管理者にて通報、誘導、消火の手順の確認を行っている。	火災の避難訓練は年2回、内1回は消防署立会いで行なっている。近隣住民の参加もある。法人栄養士が作成した非常食マニュアルと防災食のストックがある。災害時の持ち出し書類もまとめられており、災害時支援カードには利用者の既往歴や服薬が一目でわかるようになっている。ハザードマップも掲示してある。	防災計画は作成しているが、地震や風水害の訓練が行われていない。火災訓練時に行政の防災計画をもとに「土砂災害から身を守ろう」という説明は行っている。今後災害の訓練の実施を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「人生の先輩である」としての尊敬の気持ちを持ち、声かけに注意を払っている。	入所時に個人情報の説明を行ない、写真掲載等の同意を得ている。職員も入職時に守秘義務の誓約書をとっている。入浴介助も基本同性介護としている。個々の記録やプランも職員詰所にて保管している。排泄時の声掛け等にも十分配慮しながら行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	二択から選ぶなど、自己決定できるような声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務優先にならないよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容室が定期的に来所。希望者は美容室への外出も支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	簡単なお手伝いはお願いしている。	食事は法人の施設で栄養士の献立のもと調理員が作った食事を提供している。日曜日のみ各ユニットで調理している。食事形態もペースト・ほぐし・きざみと利用者に合わせた、様々な形態での提供となっている。ペースト状でも元の食材がわかるようにと魚なら魚の形を作り提供している。職員も一緒に食事を摂っている。お元気な方には食器洗いやお盆拭きをお願いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事形態、水分ともに個別に対応行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれに合わせた口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間はおむつ使用の方もいるが、日中は布パンツ+パットで対応し、トイレでの排泄を心掛けている。個々のパターンを把握している。	それぞれの利用者の排泄パターンに合わせてトイレ誘導を行っている。昼間はパットを使用し夜間はポータブルトイレを利用している。オムツやパットはトイレにきれいに置かれており、汚物入れも1箇所に集められている。高齢の方が多く、オムツ外しは難しいが定時トイレ誘導にて失禁は少なくなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分不足、運動不足にならない様心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	月～土曜まで、入浴を行っている。本人の希望、体調をみながら、声かけを行っている。	月曜から土曜まで毎日入浴介助を行っている。利用者の希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように支援している。体調により清拭や足浴へ変更している。ゆず湯や菖蒲湯等季節に合わせた行事湯も行っている。入浴拒否があった場合は時間を置いたり職員を変更したりして対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量を多くするよう心掛けている。入眠準備には、明るさや雑音に配慮。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬がないように服薬時に日付・名前の確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	特技、趣味をいかして、日常生活に取り入れ、モチベーションアップし、笑顔を引き出せるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望に沿って、外出出来るよう支援している。2年に1回、家族懇談会にて外出も行っている。	その日の天気や利用者の意向で外出を即決できる支援体制がある。また、家族懇談会でバスを貸し切り郊外まで出かけたりと、普段行けないような場所でも利用者の希望を把握し、家族の協力を得ながら意に沿った支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理している方は少ないが、外出時に買い物へ行ったりと支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話をかけることは無いが、スタッフが取り次ぐと会話をしている。手紙のやりとりも行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	手作業にて、作り上げた作品や写真などを掲示している。	共用空間のリビングには心地良い音楽が流れており、ユニットで曲調が異なっている。リビングでは曲に合わせた体操や楽しいレクレーションが行われ、賑やかな笑い声が響いている。できるだけ離床を促すという取り組みが伺える。壁面の季節感あふれる手作業の作品もユニット毎に個性が出ている。掛け時計に温度計と湿度計が付いており、空調管理ができています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者のペースで過ごせるよう心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物を持ち込んでおり、本人が穏やかに生活できるような空間作りを行っている。	自宅で使用していたタンスや洋服掛け・ソファ・アイロンを持ち込み、仏壇も置かれている。各担当が作ったお祝いの色紙や表札が个性的である。ベッドや壁で怪我をしないようにと職員手作りの布団カバーもあり、心地よく安心して暮らせる配慮がある。清掃は専属の職員がおり、介護職員は利用者との交流や介護に専念できている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	残存能力維持できるよう、出来ることはなるべくして頂いている。		